

1. エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。(2:1)
 - a. 「御使い」という言葉を単に「使い」という意味としてとり、イエスの代理としてヨハネが書いているこれらの教会宛の手紙は、特定の教会の長老や司祭、牧師に宛てられたものだと考える人もいる。しかし黙示録全体の文脈から考えると、ここでの「御使い」とは教会に遣わされた神のような存在であると考えるのが良いであろう。
 - b. 黙示録を読んでいくと、神の御使いの手によって神の御心がなされていき、同時に人間も世界的、また個人的レベルでその結果に関わっていく。これらの教会も同様である。
 - c. 7つの教会宛の手紙には共通して、まず御使いに与えられた啓示、そしてそれを与えているお方についての啓示がある。今日見るエペソ教会への手紙でのイエスキリストについての啓示は、「7つの御使いである7つの星を手を持ち、7つの教会である金の燭台の間を歩く方(1:20, 2:1)」である。
 - d. さらにこれらの手紙に共通していることとして、その内容はそれぞれの教会に宛てられているが、対象は聞く耳のある者(「耳のある者は御霊が諸教会に言われていることを聞きなさい。」)であり、またいつも約束が伴っている(「勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。」)(2:7)。

2. 「わたしは、あなたの行ないと あなたの労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることができず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽りを見抜いたことも知っている。あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。(2:2-3)
 - a. エペソの教会は良い働きをしていた。良い行ないをし、労苦と忍耐があった。
 - b. 彼らは悪い者、偽教師、偽信徒たちをがまんすることができなかった。悪がその邪悪な頭をもたげた時彼らは立ち向かった。以前学んだコリントの教会はこのような内側の勇氣を持ち合わせていなかった。これは私たちも直面する問題であり、神は私たちの行動すべてをご存知である。
 - c. 彼らは正しいことをしたために迫害された。悪に立ち向かっていくといずれは孤立し迫害の対象となる。エペソの教会は苦難を耐え忍び、神とイエスの御名のため戦う熱意を持っていた。

3. しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行ないをなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行ないを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。』(2:4-7)
 - a. ここでイエスはエペソの教会が初めの愛を失ったと叱責されているが、その愛というのは神に対してなのか、あるいは人に対してなのかはわからない。しかし、神を愛するということは人を愛することでもある(1ヨハネ4:20)。
 - b. 愛とは教会の最も重要な特質である。愛がなければ私たちが御国のために何をしようとすべては無駄になってしまう(1コリント13)。愛はとても大切であり、それを失ってしまう教会は神の光を映す場所でなくなってしまう。
 - c. しかし愛とは時として厄介なものである。愛とは誰にでも好き勝手にさせることではない。イエスがエペソ教会が憎んでいたことに対して再度ほめられたように、(2:6)、愛するということは間違ったことよりも正しいことを選んでいくことである。正しく愛し正しく憎むには知恵と勇氣が必要になる。
 - d. しかしそれを乗り越える者は神のパラダイスのいのちの木の実を得ることができる。